

共同研究プロジェクト「言語接触と系統継承：大湖地域から南部アフリカにかけて話されているバンツ語と隣接言語の記述研究」2009年度第2回

日時：11月14日（土）1時半から5時半

場所：AA研小会議室（302室）

内容：品川大輔（AA研共同研究員，香川大学）

「キリマンジャロ・バンツ語におけるTAマーカの分布と対応—今後の（横断的）調査に向けて—」

研究会報告：アフリカ、タンザニア、キリマンジャロ山麓で話されているチャガ語群（言語連続体）におけるテンス・アスペクトの共時的・通時的記述に関して報告と議論をおこなった。言語連続体におけるテンス・アスペクトの発展・変化と地理的な関係についての興味深い議論が行なわれた。

（発表者要旨は次ページより添付。）

[要旨]

# キリマンジャロ・バンツー諸語における TA マーカーの分布と対応 —今後の（横断的）調査に向けて—

品川 大輔

香川大学 経済学部

キリマンジャロ・バンツー諸語 (Kilimanjaro Bantu languages, 以下 KB) は、いわゆる dialect continuum を形成しているが、その段階的変容は、形式的対応が明らかな時制および相 (Tense and Aspect, 以下 TA) マーカーが表示する TA 概念が連鎖的な対応関係を見せるという点にも見出すことができる。すなわち、KB 諸語に見いだされる (T)A マーカーの多くが同一の共通 (語彙) 形式に遡りえて、かつそれらが個々の言語において果たす概念は、有機的な連関をもった文法変化の方向性 (cf. (uni-)directionality of grammaticalization) のスケールに連続的に位置づけうるものが、いくつかの具体事例から明らかである。

例えば、PB \*-kal- ('sit, stay, remain etc.' cf. [Nurse: 78]) に由来する形式が、KB 内のある言語においては (自立的な) コピュラとして機能し、また別の言語においては接辞化して進行相を表示し、さらに別の言語では習慣相を表示する形式として機能している。このとき、これら諸概念の間に有意な概念的連関があることは、昨今の文法化研究において夙に指摘されているところである。具体的には、i) COP (および CONT, HAB) の語彙的起源 (lexical source) としての 'sit' (Heine and Kuteva 2002: 278, 331), ii) CONT の派生源としての COP (Heine and Reh 1984: 122), iii) CONT から HAB への概念変化 (Bybee et al. 1994: 158, Haspelmath 1998: 48, Heine and Kuteva 2002: 93) といったところである。

発表者は、このような TA マーカーの連鎖的対応関係を「網羅的 (各言語の TA 体系を構成する諸 TA マーカーを可能な限り漏らさず記述する)」かつ「横断的 (可能な限り広範な言語を分析の対象とする)」に調査、分析することで、KB の言語動態の一端 —とりわけその文法化プロセス— を実証的に明らかにしていきたいと考えている。本発表は、このような構想に基づく今後の調査に先立って、すでに公刊されている先行研究ならびに記述資料と発表者が有するデータを整理し、今後の研究への見通しを確立していくことを目的としたものである (具体的な内容、とりわけ TA 体系変化に関する作業仮説に関しては、ハンドアウトを参照されたい)。

# キリマンジャロ・バンツー諸語における TA マーカーの分布と対応 —今後の（横断的）調査に向けて—

品川 大輔  
香川大学

## 1 目的

キリマンジャロ・バンツー諸語 (Kilimanjaro Bantu languages, 以下 KB)<sup>1</sup> は、いわゆる dialect continuum を形成しているが、その段階的変容は、形式的対応が明らかな時制および相 (Tense and Aspect, 以下 TA) マーカーが表示する TA 概念が連鎖的な対応関係を見せるという点にも見出すことができる。すなわち、KB 諸語に見いだされる (T)A マーカーの多くが同一の共通 (語彙) 形式に遡りえて、かつそれらが個々の言語において果たす概念は、有機的な連関をもった文法変化の方向性 (cf. (uni-)directionality of grammaticalization) のスケールに連続的に位置づけうるものが、いくつかの具体事例から明らかである。

(1) *ke-* < \**-kal-* ('sit, stay, remain etc.' cf. [Nurse: 78])

---

a.	Gweno	<i>á-ké</i>	<i>a-rítǎ</i>
	(Gweno [P&N: 39]) <sup>2</sup>	3s-COP	3s-run
		'he is running'	

---

b.	Rwa	<i>a-keé-rishá</i>
	(WK)	3s-CONT-走る
		「彼 (女) は走っている」

---

<sup>1</sup> Philippson and Montlahuc (2003: 475) は、Guthrie (1971) の Chaga group (E60) に、E74 の Dawida を加えた諸言語を KB としている。また同書が指摘するように、いわゆるガスリー分類における Chaga 内部の分類には、いくつか不正確ないし非整合的な点がある。

<sup>2</sup> 例文が先行研究の引用である場合は、「言語名 (小語群 [引用文献:頁数])」の形でその出典を明示する。先行文献略号は次のとおり ; [P&N] = Philippson and Nurse (2000), [Moshi] = Moshi (1994), [Ruge] = Rugemalira (2009), [Kagaya] = 加賀谷 (1989), [Nurse] = Nurse (2003a)。これら資料からの例文は基本的にそのまま (加工, 修正せず) に引用するが, [Moshi] に関しては, 必要に応じて第一 TAM と第二 TAM を分離して表記した (cf. 3.1.1)。それによって, 対応するグロスが原典とは異なっている個所がある。

c.	Vunjo (CK [Moshi: 145])	<i>N-á-kè-zriká</i> PROC-1:SU-CTM-brew	<i>wàri wò wólyĩ</i> beer of wedding 'S/he [ <b>habitually/usually/often/sometimes</b> ] brews wedding beer.'
----	----------------------------	---	---

(1) に示した *ké-* (Gweno), *keé-* (Rwa), *kè-* (Vunjo) が, \**kal-* 'sit, stay, remain etc.' (Nurse 1981: 158) に由来する形式であることは, 引用した各先行研究に示されているとおり十分確証に足る<sup>3</sup>. そしてこれら同根形式が, ギェノ語 (以下 Gwe.) では「コピュラ (COP)」および分析的な構文 ("two-word verb constructions" [P&N: 39]) における「進行相 (CONT)」表示形式 ((補) 助動詞) として, ルワ語 (Rwa.) では接辞化した形で同様に CONT として, さらにヴンジョ語 (Vun.) においては「習慣相 (HAB)」マーカーとして, それぞれ機能しているわけである.

一方で, これら諸概念の間に有意な概念的連関があることは, 昨今の文法化研究において夙に指摘されているところである. 具体的には, i) COP (および CONT, HAB) の語彙的起源 (lexical source) としての 'sit' (Heine and Kuteva 2002: 278, 331), ii) CONT の派生源としての COP (Heine and Reh 1984: 122), iii) CONT から HAB への概念変化 (Bybee et al. 1994: 158, Haspelmath 1998: 48, Heine and Kuteva 2002: 93) といったところである.

発表者は, このような TA マーカーの連鎖的対応関係を「網羅的 (各言語の TA 体系を構成する諸 TA マーカーを可能な限り漏らさず記述する)」かつ「横断的 (可能な限り広範な言語を分析の対象とする)」に調査, 分析することで, KB の言語動態の一端 —とりわけその文法化プロセス— を実証的に明らかにしていきたいと考えている. 本発表ではこのような構想に基づく今後の調査に先立って, すでに公刊されている先行研究ならびに記述資料と発表者が有するデータを整理し, 今後の研究への見通しを確立していくことを目的とする.

## 2 分析対象資料

上述の観点における KB 諸語の TA 研究の先駆けに位置づけられるのが Nurse (2003a) である. ただし同論文が重点的に扱っているのは, ヴンジョ語 (中央キリマンジャロ小語群, CK) と (補足的に) ギェノ語であり, 西キリマンジャロ小語群 (WK) についての言及は限定的である. このことは, この時点において, WK の TA 体系に関する公刊された記述資料が乏しかったということに因るが (cf. *ibid.*: 69,

<sup>3</sup> <Gweno> Gweno has many **two-word verb constructions in which the first word is** clearly (in some cases) or possibly (in others) **a form of the copula** [P&N: 39]. There is also **a locative copula /-ke/, probably derived from /-ikee/, the perfect form of /-ikaa/** 'sit, stay' [P&N: 38]. <Vunjo> The aspectuals under consideration are: *wa* 'be', *kaa* 'be/ stay', *enda* 'go', *ca* 'come', *maa* 'finish'. ... when they combine with the primary time marker *i*, the resulting forms are *we* (*wa* + *i*), *ke* (*kaa* + *i*), *nde* (*enda* + *i*), and *ce* (*ca* + *i*) [Moshi: 142]. 強調部は発表者による. また以下にも触れるとおり, [Moshi] の分析には, 一部整合性を欠くように (少なくとも発表者には) 思われる点がある.

75), 近年マシャミ語 (Machame とも, Mash.) の reference grammar (Rugemalira 2009) が著され<sup>4</sup>, 研究の射程が拡張されつつある. この新資料を含め, 本発表で参照する資料を, 表 1 に示す (下線で示したものは引用資料. また各言語の地理的分布は, 付 1 を参照).

表 1: 参照資料出典一覧

小語群	言語名	資料
Central Kilimanjaro (CK)	Vunjo (E62b)	<u>Moshi (1994)</u> , Nurse (2003a), 八尾 (2009)
	Moshi/ Moci (E62a)	Raum (1909)
West Kilimanjaro (WK)	Rwa (E61)	<u>品川 (2008, 2009)</u>
	Mashami (E62a)	<u>Rugemalira (2009)</u> , Yukawa (1989)
	Kibosho	<u>加賀谷 (1989)</u>
Gweno	Gweno	<u>Philippson and Nurse (2000)</u>
Rombo		-
(Dawida/ Taita)	Dawida (E74)	Philippson and Montlahuc (2003)

### 3 データ

#### 3.1 導入

##### 3.1.1 動詞の形態論的構造

KB における一般的な動詞構造を, 本発表の論旨に支障を及ぼさない程度に簡略化して示せば, (2) のように一般化しうる.

(2)

(PROC-) SM- TAM<sup>n</sup>- (OM<sup>n</sup>-) Stem -Suffix<sup>n</sup> (-ENC)

必須要素は主語接頭辞 (SM), TA マーカー (TAM), 動詞語幹 (Stem), (屈折) 接尾辞 (Suffix) であり, このうち TAM と Suffix が TA 表示にかかわる形式である. この両者および目的語接辞 (OM) は, 複数の形式を並列させうる (“n” で表示). 構造の両端に位置する倚辞には前倚辞 (PROC) と後倚辞 (ENC) が立ちうるが, KB においては一般にフォーカスマーカーとされるコンピュータ起源の PROC (e.g. (5d) Vun. の N-) の存在がよく知られている<sup>5</sup>.

<sup>4</sup> ただし, これは現時点ではマニユスクリプトであるが, 著者によれば, 現在編集作業中で, 近く公刊の予定とのことである.

<sup>5</sup> ただ, すべての KB において画一的に表れるわけではない (たとえばルワ語における該当要素 N<sup>n</sup> は, 倚辞と言うには形式的な自立性が高い). そして, 各言語におけるこの形式の正確な表示概念についても

TA 表示にかかわる TAM と Suffix について、補足的な説明を加える。両者は、さらに次のような下位構造をなす ((3) = TAM, (4) = Suffix)。

(3)

TAM <sup>n</sup>	
Primary [tense] marker	(Secondary [aspect] marker <sup>n</sup> )
<i>a<sub>1</sub>-, a<sub>2</sub>-, i-, e-, le-</i>	<i>m-/ maa-, ke-, ci-, nde-, ce-</i>

TAM が複数並置される場合、その配列パターンは一定の辞順に従う (cf. 付 3 [3]=Rwa の辞順)。例えば Rwa; *N'-a-ĩ-M'-maa-loli-á-a* 「私は (過去の基準時点までに) 見てしまっていた [過去完了]」においては、*a-, i-, M'-, maa-* の 4 つの TAM が共起している。このとき、最初頭に現れる *a-* はそれのみで定動詞としての形式を成立させうる (cf. *N'-a-lóli-a* 「私は見た [近過去]」) のに対し、*M'-* および *maa-* に関しては、それ単独で生じることはない (i.e., \**N'-M'-loli-a*, \**N'-maa-loli-a*)<sup>6</sup>。すなわち、前者は形式を成立させる上で必須のマーカであるが、後者は前者とともに現われて、付加的に時間表現を精緻化する働きをなす。このような構造上の特性を踏まえ、Moshi (1994: 129) は前者を “primary” time markers と呼び、前者と後者を組み合わせた形式を “compound” time markers と呼んでいる。本発表では、“compound” time markers の後者部分を “secondary” marker と称することとし、前者を「第一 TAM」、後者を「第二 TAM」と言及する。以下に見るとおり、KB 一般において第一 TAM はいわゆる時制概念を、第二 TAM はアスペクト概念に相当する機能を表示する傾向が認められる (cf. Nurse 2003a: 77)。

次に本発表で Suffix としているものを整理しておく。これは構造上 3 つのスロットを立て得て、形式上義務的なものは末尾辞 (あるいは終母音, Final vowel, F) のみであり、具体的には \**a* (INDICATIVE, “default”), \**é* (SUBJUNCTIVE), \**ile* (ANTERIOR) の対応形が該当する。これらに加え、言語によっては、前末尾辞 (Pre-Final) および後末尾辞 (Post-Final) を付随的に取るものがある。

(4)

Suffix <sup>n</sup>		
(Pre-Final)	Final vowel	(Post-Final)
<i>-a</i> (<* <i>-ag</i> )	<i>-a, -ie, -e</i>	<i>-VC</i>

通時的には、前末尾辞は \**ag* の対応形であり、これは WK のみに認められる (Philippon and Montlahuc 2003, 495)。また、後末尾辞に関しては、把握している限りでは Rwa にのみ認められ、形式上は末尾辞最終母音をコピーしたもの (Vowel Copy, VC) である。これに関しては 3.4.3 で扱う。

---

(発表者は) 十分に把握していないため、以下の具体例におけるグロスには単に PROC と示す。

<sup>6</sup> Rwa の *i-* は、構造的にも、表示概念上も、両者の中間に位置づけられるようなふるまいをするが、本発表では他言語との対照のための便宜も踏まえ、第一 TAM に位置づける。

### 3.1.2 分析対象<sup>7</sup>

TAM に関しては, KB 一般において, 第一 TAM (3.2) は形式的にもまた表示機能の面でも, 相対的に変異が小さいため, 以下の議論では主に第二 TAM (3.3) を中心に論じる. Suffix については, "default" の F -a を除く, PreF -a (=前末尾辞, 3.4.1), F -ie (=末尾辞, 3.4.2), そして後末尾辞 (3.4.3) の順に扱う<sup>8</sup>.

## 3.2 Primary markers

### 3.2.1 $a_1$ -, $a_2$ -

(5)  $a_1$ -, PST.N

a.	Rwa. (WK)	<i>ti-a-lóli-a</i> 1p-PST.N-見る-F 「私たちは見た」			
b.	Mash. (WK, [Ruge: 29])	<i>n-lu-á-many-a</i> PROC-1p-PST.N-know-F 'we knew'			
c.	Kibo. (WK, [Kagaya: 829])	<i>ŋ-l-o-ch-a</i> (l-o- < lu-a-) PROC-1p-PST.N-着く-F 「私たちは着いた」			
d.	Vun. (CK, [Moshi: 136])	<i>N-á-á-<sup>↓</sup>wúká</i>	<i>íhá</i>	<i>íúnú</i>	<i>ngámè-nyĩ</i>
		PROC-2 <sup>9</sup> :SU-PST.N-leave	here	today	morning-LOC
'S/he left here this morning.'					
		cf. * <i>N-á-á-<sup>↓</sup>wúká</i>	<i>íhá</i>	<i>úkòǔ</i>	
		PROC-2:SU-PST.N-leave	here	yesterday	
'S/he left here yesterday.'					

<sup>7</sup> 接続法 (subjunctive, -e) や継起相 (consecutive, ka-) といった従属的な動詞形式, 関係節, さらには否定形なども, TA 体系の全体を明らかにするうえでは等閑視できない項目ではあるが, 有意義な対照を行うだけの資料が得られていないため, 本発表では対象から除外する. ただし, KB 一般において否定は, 関係節や接続法等を除いて, 肯定形に不変化詞を後続させることによって分析的に表示するため, 「否定+TA 概念」を表示する形式は認められない.

<sup>8</sup> また, バンツー諸語における TA 形式の分析は, "TAM- / -Suffix" の組み合わせ全体を対象に行うのが伝統的また一般的な方法である. これは, 両形式の組み合わせによって表示される TA 概念を, 構成的 (compositional) に捉えられない (TAM および Suffix の形式の意味の総和としてだけでは正確に捉えられない) 場合があることを考えれば当然のことである. この点について発表者も承知しているが, 本発表ではとりわけ第二 TAM の KB 諸語間の機能対応に焦点を絞るため, まず TAM および Suffix の形式「そのもの」の表示概念に注目して論を進める. また次の Nurse (1981: 156) も参照; In general, tense/aspect/ mood are indicated in Bantu languages by a combination of TA [=TAM] and suffix acting together. ... Chaga and Sabaki have tended to move away from joint use of suffix and TM, and have emphasized the role of TM.

<sup>9</sup> sic.

- ▶ いずれの言語においても近過去 (“P<sub>1</sub>” in Nurse 2003 etc) を表示
- ▶ また、同じ *a-* という形式でありながら (動詞全体として) 音調が異なるもの (便宜的に *a<sub>2-</sub>* とする) を認める言語もあり、これは 3 段階の過去を持つ言語における遠過去 (“P<sub>3</sub>” in Nurse 2003) を表わす。
- ▶ 分布は、WK の西端 (ルワ語およびグニ語, cf. Nurse 2003: 87)。

(6) *a<sub>2-</sub>*, PST.R

Rwa.	<i>ti-a-lólí-á</i>
(WK)	1p-PST.R-見る-F 「私たちは見た (ずっと以前)」

- ▶ 同じく WK に属するマシャミ語も過去時制に 3 段階の区別を有するが、同言語における P<sub>3</sub> は、*e-* で表示される (cf. 3.2.2)。

3.2.2 *i-*, *e-*

- ▶ ヴンジョ語 (を含む CK) では、*i-* が、一般的な意味での現在進行ないし近未来 (例中グロスでは、便宜的に CONT と表示) を表す<sup>10</sup> (7a-b)。
- ▶ 同形式の *i-* が、ルワ語では部分相 (imperfective) 諸形の「過去時制」を表示するマーカー (past imperfective, P.I.) として用いられる (7c)。

(7) *i-* (< \**li-* 'be', cf. [Nurse: 77])

a.	Vun.	<i>Mkà n-á-ĩ-shòóngà</i>	<i>(ùlálù)</i>
	(CK, [Moshi: 132])	1:wife PROC-1:SU-CONT-jump	now
		'The wife is jumping [definite].'	

<sup>10</sup> [Moshi] は、TA 概念の分類のために i) 発話時 (speech time), ii) 事態発生時 (event time), 参照点 (reference point) という 3 基準を立て [p. 128], *i-* (および後述の *keri-*) の標示概念について、次のように述べている ; Both *i* and *keri*, which denotes the IMPERFECTIVE, are used to describe an event whose event time and reference point coincide with speech time. When *i* or *keri* are used, there is an understanding that the concept of 'now' includes extended stretches of time encompassing the actual speech time ([Nurse: 75] でいう "present-used-as-future"). また, [Nurse: 77] も参照 ; The only marking in the Present is *-i-*, which is thus an aspect used as a tense. In Vunjo, in many Chaga dialects, and in many other languages, this (Present) Progressive can also refer to events in the near future.



b.	Vun. (CK, [Moshi: 135])	<i>Màngì n-á-ǎ-cà</i> 1:chief PROC-1:SU-CONT-come	<i>inû/ngàmǎ/*màkǎ</i> ↓ <i>có ò-cá</i> today/ tomorrow/ *year that it-come 'The chief will come [is coming] today/ tomorrow/ *next year.'
		cf. <i>Màngì n-é-é'cǎ-cá</i> 1:chief PROC-1:SU-FUT.N-come	<i>ngàmǎ/*inû/*màkǎ</i> ↓ <i>có ò-cá</i> tomorrow/ *today/ *year that it-come 'The chief will come tomorrow/ *today/ *next year.'
c.	Rwa. (WK)	<i>ti-ǎ-keé-loli-a</i> 1p-P.I.-CONT-見る-F 「私たちは見ていた」	

- ▶ (7c) と同様の機能は、キボショ語では *e-* が担う (8a).
- ▶ [Ruge] によれば、マシャミ語においては、*e-* は遠過去 (PST.P, "P<sub>3</sub>", cf. (6)) を表示するようであるが (8b), P.I. に対応するようにも見える例がある (8c).

(8) *e-*

a.	Kibo. (WK, [Kagaya: 829])	<i>ŋ-lu-e-som-aa</i> PROC-1p-P.I.??-読む-PRS/CONT 「私たちは読んでいた」	
b.	Mash. (WK, [Ruge: 34])	<i>n-lú-é-ké-many-a</i> PROC-1p-PST.R?/P.I.?-CONT-know-F 'we were understanding/ tulikuwa tunaelewa'	
c.	Mash. (WK, [Ruge: 34])	<i>n-lu-é-mány-a</i> PROC-1p-PST.R-know-F 'we knew'	

- ▶ また *e-* は、ヴンジョ語においては遠未来 (FUT.R) を表示するようであるが、[Moshi: 139 - 140] は、接続法の *e-* との形式的、概念的関連を示唆している<sup>11</sup>.

<sup>11</sup> These characteristics of the subjunctive *e* time marker identifies it with the futurate *e* time marker and clearly distinguishes it from *ie*. It is plausible, therefore, to consider the subjunctive *e* and the future marker *e* to be semantically similar and only distinguished by their morphosyntactic positions on the verbal group (see also Besha 1985 for similarities in Shambala *e*).

(9) *e-*, FUT.R < SUBJ??

Vun.	<i>Màngì n-á-é-álikà</i>	<i>màká ʃcò ò-câ/*ínú/*ngàmǎ/</i>
(CK, [Moshi: 135])	1:chief PROC-1:SU-FUT.R-marry	year that it-come/ *today/ *tomorrow/ 'The chief will marry next year/ *today/ *tomorrow.'

▶ またヴンジョ語において P.I. に相当すると推測される形式は, *we-* である ([Nurse: 80]<sup>12</sup>).

3.2.3 *le-*

▶ 過去時制に 3 対立を有する言語 (10a-c) における中過去 (PST.M), 2 対立の言語 (10d-e) における遠過去 (PST.R) を表示する (→ "P<sub>2</sub>").

(10) *le-*, *nde-*, PST.M/R

a.	Gwe.	<i>ni-lé-yend-ie</i>	
	(Gweno, [P&N: 19])	1s-PST.R-go-PST	'I went'
b. <sup>13</sup>	Rwa.	<i>ti-Nde-loli-a</i>	
	(WK)	1p-PST.M-見る-F	「私たちは見た」
c.	Mash.	<i>n-lú-le-mány-a</i>	
	(WK, [Ruge: 29])	PROC-1p-PST.M-know-F	'we knew'
d.	Kibo	<i>ŋ-lu-le-ch-a</i>	
	(WK, [Kagaya: 829])	PROC-1p-PST.R-着く-F	「私たちは着いた」
e.	Vun.	<i>N-á-ʃlé-wúká</i>	<i>ihǎ úkòǔ</i>
	(CK, [Moshi: 136])	PROC-2:SU-PST.R-leave here yesterday	'S/he left here yesterday.'
		cf. * <i>N-á-ʃlé-wúká</i>	<i>ihǎ ʃínú ngámè-nyĩ</i>
		PROC-2:SU-PST.R-leave here today morning-LOC	'S/he left here this morning.'

<sup>12</sup> In Vunjo this *we* occurs first in any string, although it does not mark tense, and it replaces regular past tense markers in some combinations of past and aspect. This behavior of *we* is paralleled across Chaga, where it is associated predominantly with forms referring to past and/or imperfective (i.e., progressive, habitual, or continuous).

<sup>13</sup> ルワ語の *Nde-* における /N/ (の起源) については不明. ただし, 音韻論的に /N/ に後続する /l/ が /d/ に交替すること自体は妥当.

### 3.3 Secondary markers

#### 3.3.1 *nde-, ce-*

▶ ルワ語およびヴンジョ語においては, *nde-*, *ce-* とともに, 自体の実現可能性にかかるモダリティーマーカーとして機能しているようである.

(11) *nde-* (< \**-yend-*, cf. Nurse 1981, 158), INT ↓

a.	Rwa. (WK)	<i>ti-ndé-loli-áa</i> 1p-INT ↓ -見る-FUT 「私たちは見ることになるだろう / かもしれない」
b.	Vun. (CK, [Moshi: 146])	<i>Mśúlrí n-á-í-ndè-zriká</i> <sup>↓</sup> <i>wári</i> 1:nobleman PROC-1:SU-CONT-INT ↓ -brew 11: beer ‘The nobleman is expected to brew the beer [soon].’
c.	Vun. (CK, [Moshi: 146])	<i>Mśúlrí n-á-<sup>↓</sup>cí-ndé-zrèzrà</i> 1:nobleman PROC-1:SU-FUT.N-INT ↓ -speak ‘[We know that] the nobleman intends to speak.’

▶ ただし [P&N] によれば, ギェノ語における \**-ja-* に由来する TAM *-a(-)tfe-* は, 遠未来 (P<sub>3</sub>) を表示する.

(12) *ce-* (< \**-ja-*, cf. Nurse 1981, 157), INT ↑

a.	Rwa. (WK)	<i>ti-shé-loli-áa</i> 1p-INT ↑ -見る-FUT 「私たちはきっと見るだろう」
b.	Vun. (CK, [Moshi: 148])	<i>Mśúlrí n-á-í-cè-zrèzrà</i> 1:nobleman PROC-1:SU-CONT-INT ↑ -speak ‘The nobleman [definitely] intends to speak [immedeately].’
c.	Vun. (CK, [Moshi: 148])	<i>Mśúlrí n-é-<sup>↓</sup>cí-cè-zrèzrà</i> 1:nobleman PROC-1:SU-FUT.N-INT ↑ -speak ‘The nobleman [definitely] intends to speak [sometime soon].’
d.	Gwe. (Gweno, [P&N: 39])	<i>fw-atfe-yua maru yú</i> 1p-FUT.R.-buy banana ‘we will buy bananas (some day).’

▶ また, ルワ語およびヴンジョ語における両形式は, 組み合わせられる時制概念が必ずしも「未来」に限定されるわけではない (cf. [Nurse: 87]).

### 3.3.2 *m-/maa-*

- ▶ WK (13b-c) では、一般的な意味での「完了 (perfect/ anterior, PERF)」相を表示する。[Nurse: 78] によれば、ヴンジョ語において「完了」は、*-ie* が表示するという (cf. 3.4.2).
- ▶ ヴンジョ語 (13d) の *m-* は、「基準時点 (= 関連する事態の事態発生時まで) その行為が終わってしまっている」という「完結 (completive, [Nurse: 78])<sup>14</sup>」の意味を表わすという [Moshi: 149 -150].

(13) *m-* (< \**-mad-*, cf. [Nurse: 79]), PERFECTIVE ~ ANTERIOR

a.	Gwe. (Gweno, [P&N: 39])	<i>ɲumbe yakwa i-ndé-(m(i))-pŋwá</i> cow my 9-PERF-die 'my cow has died'	
b.	Rwa. (WK)	<i>ti-a-M'-loli-a</i> 1p-PST.N-PERF-見る-F 「私たちは見た (完了) / tumeona」 cf. <i>ti-a-i-M'-loli-á-a</i> 1p-PST.N-P.I.-PERF-見る-F-PosF 「私たちは見てしまっていた (完了) / tulikuwa tumeona」	
c.	Mash. (WK, [Ruge: 29])	<i>n-lu-á-m-many-a</i> PROC-1p-PST.N-PERF-know-F 'we have <b>already</b> known' cf.-1 <i>n-lú-lé-m-many-a</i> PROC-1p-PST.M-PERF-know-F 'we have (ever) known/ tumewahi kujua' cf.-2 <i>n-lú-é-m-many-a</i> PROC-1p-PST.R-PERF-know-F 'we had known'	
d.	Vun. (CK, [Moshi: 150])	<i>Wàsòlrò wá-á-m-cá</i> <i>ùlálù/ inù/ *ùkòù</i> 2:man 2:SU-PST.N-COMP-come now/ today/ *yesterday 'The man have come/ arrived now/ today/ *yesterday.' cf. <i>Wàsòlrò wá-lé-m-cà</i> <i>*ùlálù/ *inù/ ùkòù</i> 2:man 2:SU-PST.R-COMP-come *now/ *today/ yesterday 'The man came *now/ *today/ yesterday.'	

<sup>14</sup> Completive [= *m-*] represents an action or event that took place prior to the present and is felt in some way to be definitely finished and not repeatable. そして、この *m-* をスワヒリ語における *sha-* に相当するものとして捕えているが、ルワ語においては、その機能は概ね *maa-* のそれに対応する。

▶ 「完結」相は、WKにおいては *m-* に *maa-* を後続させる構造をとる。このとき、ルワ語 (14a) では、*maa-* が接辞化していると思われるが、マシャミ語 (14b) では形式上、語彙的性質を残している。

(14) *maa-*

a.	Rwa. (WK)	<i>ti-a-M'-maa-loli-a</i>	
		1p-PST.N-PERF-COMP-見る-F	
		「私たちは見終わった (完了) / <i>tumshaona</i> 」	
b.	Mash. (WK, [Ruge: 32])	<i>ni-shi-á-n-maa</i>	<i>ĩ-ghém-â</i>
		PROC-1s-PST.N-PERF-finish	INF-cultivate-F
		'I have already cultivated/ <i>nimeshamaliza kulima</i> '	

### 3.3.3 *ke-/keri-*

▶ (1) で見たとおり、グェノ語で補助動詞的な CONT マーカー、WK で TAM としての CONT マーカー、そして、ヴンジョ語では HAB マーカーとして機能している。

▶ ヴンジョ語において、*ke-* が HAB マーカーとして機能していることは、当該言語に *\*-ag* が継承されなかった事実を起点とした、体系の連鎖的変化の結果として説明できる蓋然性が高い (3.4.1 後述)。

(15) cf. (1)

a.	Gwe. (Gweno, [P&N: 39])	<i>á-ké a-ritfa</i>	
		3s-COP 3s-run	
		'he is running'	
		cf.-1 <i>ní-fw-â- yua</i>	
		N-1p-PRS-buy	
		'we are buying'	
		cf.-2 <i>fu-kya-yenda</i>	
		1p-CONT-go	
		'I'm going'	
b.	Rwa. (WK)	<i>a-keé-rishá</i>	
		3s-CONT-run	
		「彼 (女) は走っている」	
c.	Mash. (WK, [Ruge: 29])	<i>n-lú-ké-many-a</i>	
		PROC-1p-CONT-know-F	
		'we are knowing' [sic.]	
d.	Vun. (CK, [Moshi: 145])	<i>N-á-kè-zriká</i>	<i>wàri wò wólyĩ</i>
		PROC-1:SU-HAB-brew beer of wedding	
		'S/he [ <b>habitually</b> /usually/often/sometimes] brews wedding beer.'	

- ▶ ヴンジョ語の *ke-* について [Moshi: 145] は, *-kaa-* に第一 TAM の *i-* が後続したものとして記述しているが, 構造的な位置取りからは, むしろ不定詞 (動名詞) 化させる cl. 5 接頭辞 *i-* との結合と見るべき蓋然性が高いと考えられる (cf. [Nurse: 70, 77], また 3.1.1).
- ▶ またヴンジョ語の CONT には, 前述 (3.2.2) の *i-* とともに, *keri-* という形式がある. [Moshi: 132] はこれも第一 TAM と見ているが, これは *kaa* に Suffix *-ire* (= "the STATIVE marker" [ibid: 140]) が後続した形式に由来する可能性がある (cf. [ibid. 138]). だとすれば, それはルワ語の *kee-* と形態論的にも, 概念的にも類似の形式ということになる.

(16) *keri-*, CONT

Vun. (CK, [Moshi: 132])	<i>M̄súlrí</i>	<i>n-á-ké<sup>l</sup>ri-shòóngà</i>	<i>(ùlálù)</i> (now) 'The nobleman is jumping (assumed).'
----------------------------	----------------	-------------------------------------	---

3.3.4 *ci-*

- ▶ ヴンジョ語に限らず CK において, 'know' に相当する語彙形式 (Vun. *ci*) が近未来 (FUT.N) 時制を表示することはよく知られている (17a).
- ▶ ゲェノ語における対応形式 *tʃi-* は, HAB マーカーとして機能する. この事実は WK における Suffix *-a-a* のふるまいと併せて考えるとき示唆的である (cf. 3.4.1).
- ▶ 'know' が HAB の語彙的起源であることは, Bybee (1994: 154), Heine and Kuteva (2002: 186 - 188) 等に言及があるとおり, 通言語的に認められる現象であるといつてよい.

(17) HAB/ FUT.M

a.	Vun. (CK, [Moshi: 145])	<i>M̄súlrí</i>	<i>n-á-í-ci-zrèzrà</i>	
		1:nobleman	PROC-1:SU-CONT-FUT.N-speak	'The nobleman will [definitely] speak [sometime in the distant future].'
b.	Gwe. (Gweno, [P&N: 26])	<i>ikéró</i>	<i>ni-tʃi-yenda</i>	<i>fúlé ...</i> school 'in the morning I go to school...'

### 3.4 Suffixes

#### 3.4.1 *-a(-a)*

- ▶ (*\*-ag* の対応形を継承する) 多くの現行のバンツー諸語同様 (Nurse 2003b, 98), HAB を表示する.
- ▶ ただし, *\*-ag* の対応形を継承しているのは, KB では WK のみである (Philippon and Montlahuc 2003: 495).

#### (18) HAB

a.	Rwa. (WK)	<i>ti-loli-áá</i> 1p-見る-HAB 「私たちは (いつも) 見ている」 cf. <i>ti-i-loli-áá</i> 1p-P.I.-見る-HAB 「私たちは (いつも) 見ていた」
b.	Mash. (WK, [Ruge: 29-30])	<i>n-lú-many-aa</i> PROC-1p-know-HAB 'we know' cf. <i>n-lu-e-many-aa</i> PROC-1p-PST.R?/P.I.?-know-HAB 'we used to know'

- ▶ さらに, ルワ語およびマシャミ語では, 音調だけが異なる形式<sup>15</sup>が FUT を表示する.

#### (19) FUT

a.	Rwa. (WK)	<i>ti-lóli-áá</i> 1p-見る-FUT 「私たちは見るだろう」
b.	Mash. (WK, [Ruge: 29])	<i>n-lú-mány-aa</i> PROC-1p-know-FUT 'we will know'

<sup>15</sup> 少なくともルワ語においては, FUT *-áá* に対し HAB *-áá* が同一のスロットに位置し, かつ対立的に機能していることから, 共時的には別形式と解釈すべきである.

- ▶ 同じく WK に分類されるキボショ語は、同形式 (-aa) が CONT を表示するようである。
- ▶ そして FUT は V- / -a という組み合わせで表示されるようであるが、TAM V- (SM の母音のコピー, [Kagaya: 829]) は、他の資料には見出されない。またこの形式は「現在進行 (20a)」にも現れている。

(20) CONT

a.	Kibo (WK, [Kagaya: 829])	<i>ŋ-lu-u-som-aa</i> PROC-1p-V?-読む-CONT 「私たちは読む～私たちは読んでいる」	
		cf. <i>ŋ-lu-u-ch-a</i> PROC-1p-V?-着く-F 「私たちは着くだろう (未来)」	
b.	Kibo (WK, [Kagaya: 829])	<i>ŋ-lu-e-som-aa</i> PROC-1p-P.I.?-読む-CONT 「私たちは読んでいた」	

- ▶ 3.3.3, 3.3.4, 3.4.1 のデータより次のプロセスが論理的に推測される。
  - ▶ \*-ag の対応形は、ルワ語およびマシャミ語で FUT/ HAB, キボショ語で CONT を表示する。
  - ▶ 文法化の一般的傾向を鑑みたとき CONT → HAB という概念変化の妥当性が高い (cf. Bybee et al. 1994: 158, etc). さらにその「方向性」を考慮に入れば、逆のプロセスは考えづらい。
  - ▶ この概念変化の引き金になったと想定されるのが, ke(e)- である。明らかに文法化の度合いが浅いと想定されるこの形式が、新たに CONT の領域に入り込むことによって, -aa が押し出される形で、表示形式を HAB へと移行させたと考えうる (cf. Haspelmath 1998).
  - ▶ HAB と FUT の分化のプロセスについては, Shinagawa 2009 を参照。
- ▶ 一方ヴンジョ語 (CK) では,
  - ▶ \*-ag の対応形は, 何らかの理由で継承されなかった。
  - ▶ これを契機 (のひとつ) として ke- は, HAB へとさらに表示領域を進めた。
  - ▶ 現在 FUT を表示する ci- は, その本来の語彙的意味から, かつて HAB を表示していたと推測される (cf. Heine and Kuteva 2002: 278, Shinagawa 2009) が, グェノ語における tfi- が HAB を表示する事実から, 実証的にもそのプロセスの妥当性が確認しうる。
  - ▶ つまり, ke-: \*CONT → HAB, ci-: HAB → FUT という玉突き式的概念変化が, ここでも生じていることが推測される。



### 3.4.2 -ie

▶ PB 段階で「完了 (perfective = anterior)」を表示していたとされる \**-jde* の対応形 (Meeussen 1967: 110, Nurse 2008: 264) は, グェノ語 (21a) で「過去一般」(“general past”, 3 段階の過去時制すべてに関与, cf. [Nurse: 82]), ヴンジョ語 (21b) では, [Nurse] の見解では (いわば本来の概念である) 「完了」を表わすとしている。

▶ しかし [Moshi] の解釈によれば, ヴンジョ語における *-ire* は, その表示概念にかなり状態性を帯びるものとみているようである (cf. “stative marker” in [Moshi: 140]). ⇔ それに対して Nurse (2003a, 2008) は, 「ANTERIOR という文法概念自体が, すでに状態性を含んだものである (とりわけ状態動詞に接合する場合)」という立場 (→terminology の問題?)。

(21) *-ie* < \**-jde* (ANTERIOR, cf. Nurse 2008: 264), PST/ STAT/ PERF

a.	Gwe. (Gweno, [P&N: 19-20])	<i>a-(∅)-yend-íě</i> <i>i-yejwá</i> <i>mriŋga</i> 3s-PST.N-go-PST    to-drink    water 'he has gone to drink water' cf. <i>ni-lé-yend-ie</i> 1s-PST.R-go-PST 'I went'	
b.	Vun. (CK, [Moshi: 137 -139])	<i>Wàkyèkù-yé</i> <i>n-á-lè-ě</i> 2:old lady-POSS    PROC-1:SU-sleep-ANT 'His/her grandmother is sleeping [right now].' cf.-1 <i>Wáńdú</i> <i>ʷá</i> <i>wá-zrém-ě</i> 2:people    these    2:su-farm-ANT 'These people have farmed' cf.-2 <i>Wàkyèkú</i> <i>wá</i> <i>wá-c-íě</i> 2: old lady    these    2:SU-come-ANT 'These old ladies came/ arrived [and are here now].'	

▶ 一方 WK では, *-ie* の表示概念が, 接合する動詞語幹のアクチオンスアルトに関わらず, かなり強い状態性を示す (22a-b).

▶ このこと (「*-ie* による状態動詞化」) は, 少なくともルワ語においては形式上にも反映されている。すなわち, *-ie* を接合する動詞形式は, 存在詞, コピュラなど形式的に一般動詞と異なる状態動詞と並行的な時制表示 (状態活用) を受けるのである (cf. 3.4.3).

(22) *-ie < \*-jde* (ANTERIOR, cf. Nurse 2008: 264), STAT

a.	Rwa. (WK)	<i>va-salal-ié</i> 3p-stand-STAT 「彼らは立っている (立っている状態である)」 cf. <i>va-i-salal-ié-e</i> 3p-P.I-stand-STAT-VC 「彼らは立っていた (立っている状態であった)」
b.	Mash. (WK, [Ruge: 33])	<i>ni-bha-salal-i-e</i> PROC-3p-stand-PERFECTIVE-F 'they are standing/ wamesimama' cf. <i>ni-bha-lw-i-e</i> PROC-3p-be sick-F 'they are sick/ wanaumwa, ni wagonjwa'

- ▶ 3.3.2 および 3.4.2 のデータから、ルワ語 (おそらくマシャミ語も) における「*-ie* による状態動詞化」が、*maa-* を TAM へと (その度合いに差こそあれ) 文法化させる契機になったと想定される。
- ▶ すなわち、*-ie* が両言語において ANTERIOR → STATIVE に表示概念を移行させていったことによって、TA 体系内 (の STATIVE のカテゴリー) にいわば隙間が生じ、そこに *m-* が侵入し、さらにそれによって生じた COMP のカテゴリーを補填するために、*maa-* が導入されたと考えるのである。つまり、*ke- >> -aa* (WK) ないし *ke- >> ci-* (CK) のような「押しの連鎖 (push chain)」ではなく、「引きの連鎖 (pull chain)」が生じたと見るわけである。
- ▶ このことは、*m-* と同じ語彙項目 *\*-mad-* に由来する *maa-* がなぜ再度文法化される必要があるのか、という疑問に対しても自然な説明を与えることができる。

### 3.4.3 -VC

- ▶ 現在のところルワ語にのみ確認している形式に、F のさらに後ろに接続すると解釈せざるを得ない形式がある。それは、F のコピー母音 (Vowel Copy) である。

(22)

	Rwa. (WK)	<i>va-i-salal-ié-e</i> 3p-P.I-stand-STAT-VC 「彼らは立っていた (立っている状態であった)」
--	--------------	--

- ▶ これは、Nurse (2008: 81 - 85, 274 - 275) によれば、同書で扱われている言語のうちの 8% のみに認められる形式であって、その表示概念は「近過去」ないし「完了 (anterior)」であるという。またその分

布もかなり散発的であり、KB が位置する E Zone には、それを有する言語はない。

▶ ただし、ルワ語においては「状態活用（過去時制）」表示形式として、かなり体系的に用いられており、またこの形式が近隣の KB との間の体系的なズレを引き起こす契機になっていると考えられる(3.4.3) ことも踏まえれば、興味深い現象であるといえる。

#### 4 仮説的見取り図としての体系的対応と今後の調査に向けた展望

以上概観したデータをリストの形で示せば次のようになる。無論、現状で把握している範囲に限定したものであるし、また発表者の誤解も含まれている可能性もあり、あくまで暫定的なものである。

表 2 : TA マーカーとその表示概念の対応 (概略)

		WK			CK	Gwe.
		Rwa.	Mash.	Kibo.	Vun.	
primary Ms	<i>a<sub>1</sub>-</i>	PST.N	PST.N	PST.N	PST.N	PRS/FUT.N
	<i>a<sub>2</sub>-</i>	PST.R				CONT ( <i>N-SM-a</i> )
	<i>e-</i>	-	PST.R?, P.I.?	P.I.	FUT.R	-
	<i>li-</i>	PST.M	PST.M	PST.R	PST.R	PST.R
(intermediate?)	<i>i-</i>	P.I.	-	-	CONT/FUT.N	-
	<i>βe-</i>	-	-	-	-	PST.M??
	<i>we-</i>	-	-	-	P.I.?	-
	<i>(SM-)V-</i>	-	-	FUT	-	-
	<i>ye-</i>	-	-	-	-	PST.M? PST.PERF? FUT.N ( <i>a-ghe-</i> )
secondary Ms	<i>ci-</i>	-	-	-	FUT.M	HAB
	<i>ke-</i>	CONT	CONT	-	HAB	CONT (analytic!)
	<i>(ker-i-)</i>	-	-	-	CONT	-
	<i>ce-</i>	INT ↑	-	-	INT ↑	FUT.R
	<i>nde-</i>	INT ↓	-	-	INT ↓	-
	<i>m-</i>	PERF	PERF	-	COMP	PERF ( <i>mi-</i> )
	<i>maa-</i>	COMP	COMP (analytic)	-	-	-
Suffixes	<i>-ile/ -ire</i>	STAT	STAT	-	PERF/STAT	PST
	<i>-ag</i>	FUT/HAB	FUT/HAB	CONT	-	-
	<i>-V</i>	P.I.	-	-	-	-

また、本発表でとくに焦点を当てた2つの系列，すなわち FUT-HAB-CONT 系および STAT-ANT-COMP 系については，次の表のようにまとめる。

表 3 : FUT-HAB-CONT 系

	WK			CK	Gwe.
	Rwa.	Mash.	Kibo.	Vun.	
FUT	-áá	-'aa	(SM-)V-	ci-	a-tjé-/a-ye-
HAB	-aá	-aa	?	ke-	tjĩ-
CONT	kée-	ke-	-aa	i-	a-/kya-/ke + Verb
P.I.	i-	e?	?	we-	?

表 4 : STAT-ANT-COMP 系

	WK			CK	Gwe.
	Rwa.	Mash.	Kibo.	Vun.	
PST.R	á-	e-	le-	le-	le- (-ie)
PST.M	Nde-	le-	a-	a-	βe- (-ie)/ ye- (-ie)
PST.N	a-	a-			Ø- (-ie)
STAT	-ie	-ie	?		?
ANT	M'-	m-	?	-ie	PST.N / nde-(mi-)
COMP	(M'-)maa	maa + INF	?	m-	?

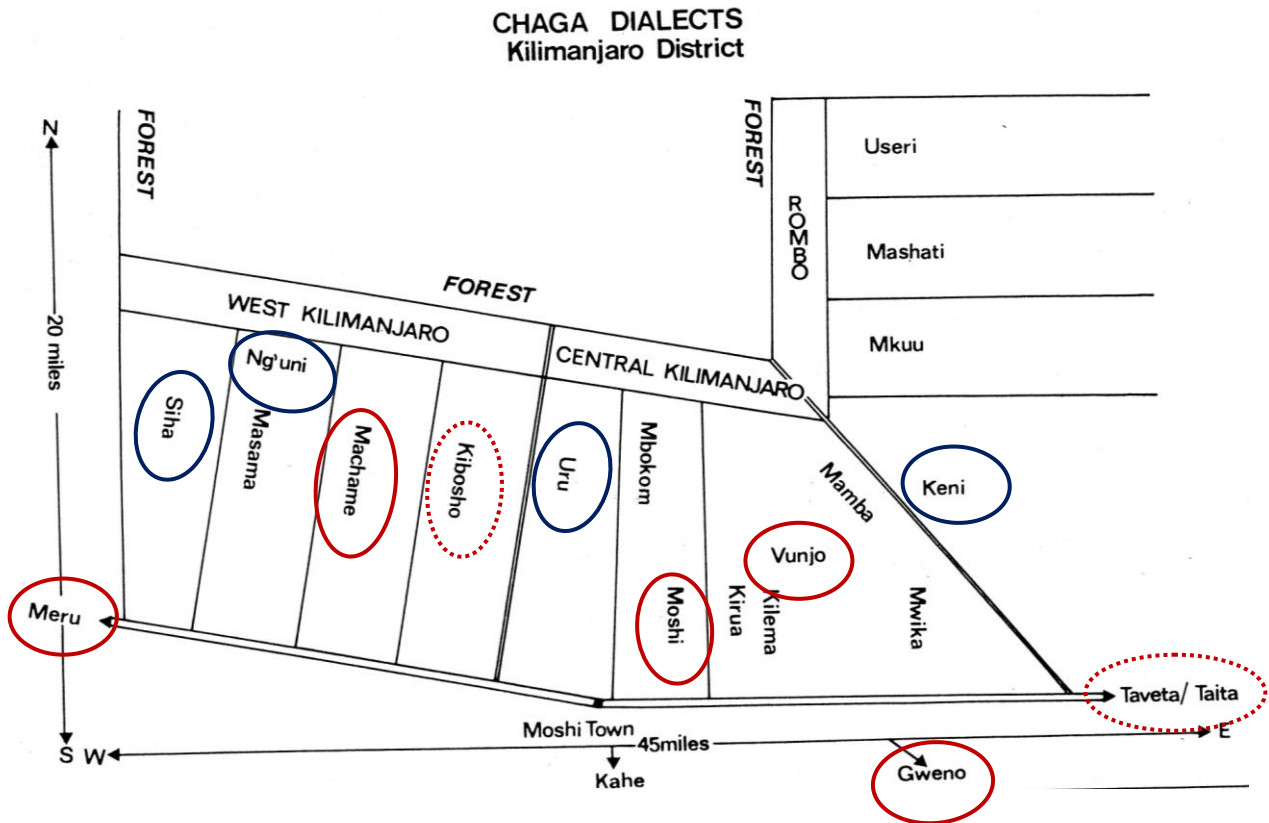
KB における TA 体系変化のダイナミズムを捉えるという今後の研究課題に対して，発表者は 3.4.1, 3.4.2 に提示した仮説的シナリオをひとつの手がかりと考えている。無論，現時点で得られているデータは，表 2-4 に示したとおり未だ雑駁なものである。今後の調査で，不明な部分を洗い直すとともに，調査対象言語を拡張する (cf. 付 1) ことで，より網羅的かつ系統だった記述資料を提供することを目指していく。

## 参考文献

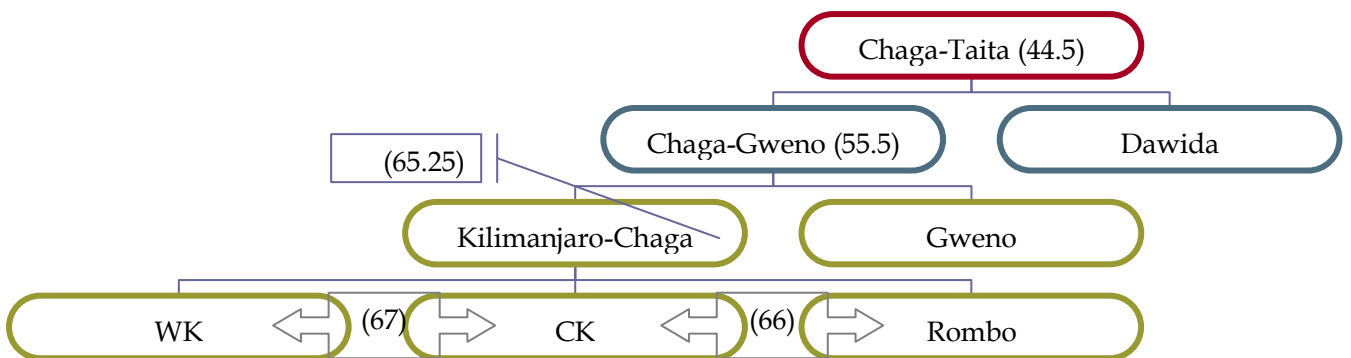
- Bybee, J. L., W. Pagliuca, and R. D. Perkins. 1991. "Back to the Future" /in/ Traugott, E. C. and B. Heine (eds.) *Approaches to Grammaticalization*, Volume 2, pp. 17 - 58, John Benjamins
- Bybee, J. L., R. Perkins, W. Pagliuca. 1994. *The Evolution of Grammar*, The University of Chicago Press
- Comrie, B. 1976. *Aspect*, OUP
- Coupez, A., Y. Bastin and E. Mumba, 1998. *Bantu Lexical Reconstructions 2*, Musée royale de l'Afrique centrale, Tervuren
- Dahl, Ö. 1985. *Tense and Aspect Systems*, Basil Blackwell
- Emanatian, M. 1992. "Chagga 'come' and 'go': Metaphor and the development of tense-aspect" /in/ *Studies in Language*, 16-1, pp. 1 - 33, John Benjamins
- Grégoire, C. 2003. "The Bantu languages of the Forest" /in/ Nurse, D. and G. Philippson (eds.) *The Bantu Languages*, Routledge
- Guthrie, M. 1971. *Comparative Bantu (vol. 3)*, Gregg Press
- Heine, B. and T. Kuteva. 2002. *World Lexicon of Grammaticalization*, CUP
- Haspelmath, M. 1998. "The semantic development of old presents: new futures and subjunctives without grammaticalization" /in/ *Diachronica* XV (1) pp. 29 - 62
- Lojenga, C. K. 2003. "Bila (D32)" /in/ Nurse, D. and G. Philippson (eds.) *The Bantu Languages*, Routledge
- Meeussen, A. E. 1967. "Bantu Grammatical Reconstructions" /in/ *Africana Linguistica* III, pp. 79 - 122, Tervuren
- Moshi, L. 1994. "Time reference markers in KiVunjo-Chaga" /in/ *Journal of African Languages and Linguistics* 15, pp. 127 - 159, Walter de Gruyter
- Nurse, D. 1981. "Chaga/Taita" /in/ Hinnebusch, Thomas H. (ed.) *Studies in the Classification of Eastern Bantu Languages*, pp. 127 - 161, Helmut Buske Verlag
- 2003a. "Tense and Aspect in Chaga" /in/ *APAL* 1, pp. 69 - 90
- 2003b. "Aspects and Tense in Bantu Languages" /in/ Nurse, D. and G. Philippson (eds.) *The Bantu Languages*. Routledge. pp. 91 - 102
- 2007. "The Emergence of Tense in Early Bantu" /in/ D. Payne and J. Peña (eds.) *Selected Proceedings of the 37<sup>th</sup> Annual Conference on African Linguistics*, Cascadilla Proceedings Project
- 2008. *Tense and Aspect in Bantu*, OUP
- Philippson, G. and M-L. Montlahuc. 2003. "Kilimanjaro Bantu (E60 and E74)" /in/ Nurse, D. and G. Philippson (eds.) *The Bantu Languages*. Routledge. pp. 475 - 500

- Philippon, G and D. Nurse. 2000. "Gweno, a little known language of Northern Tanzania", /in/  
Kulikoyela K. Kahigi, Yared M. Kihore and Maarten Mous (eds.) *Lugha za Tanzania/Languages of  
Tanzania*, CNWS Publications.
- Raum, J. 1964/ 1909. *Versuch einer Grammatik der Dschaggasprache (Moschi-Dialekt)*, Gregg Press
- Rose, S., C. Beaudoin-Liez, D. Nurse, 2002. *A Glossary of terms for Bantu verbal categories: With special  
emphasis on tense and aspect*, Lincom Europa
- Rugemalira, J. and B. Phaniel. 2009. "A Grammatical Sketch of Kimashami", MS
- Shinagawa, D. 2005. "Historical split of \*-ag-a in Rwa (Meru, E61)", Paper read at the 3<sup>rd</sup> International  
Conference on Bantu Languages, Royal Museum for Central Africa, Tervuren, Belgium
- Yukawa, Y. 1989. "A Tonological Study of Machame Verbs" /in/ Yukawa, Y. (ed.) *Studies in Tanzanian  
Languages*, pp. 223 - 338, ILCAA
- 加賀谷 良平, 1989. 「チャガ語」, 亀井孝, 河野六郎, 千野栄一 (編著) 『言語学大辞典【第2巻】』, pp. 826  
- 831, 三省堂
- 品川 大輔, 2007. 「ルワ語 (Bantu, E61) におけるアスペクトマーカの布置 : Nurse (2003a) による TA  
マトリクスとの対照」, AA 研共同研究プロジェクト「言語接触と系統継承 : 大湖地域から南部アフリ  
カにかけて話されているバンツー諸語と隣接言語の記述研究」研究会 MS
- 2008. 『ルワ語 (Bantu, E61) 動詞形態論 : 記述言語学的研究』学位申請論文 (名古屋大学)
- 八尾 紗奈子, 2008. 「チャガ語ヴンジョ方言のテンス・アスペクト接頭辞について」, AA 研共同研究プロ  
ジェクト「言語接触と系統継承 : 大湖地域から南部アフリカにかけて話されているバンツー諸語と隣  
接言語の記述研究」研究会 MS

付1：KBの地理的分布図  
 (source: Nurse 1981: 128)



付2：「語彙統計をもとにした」KBの(想定)系統図  
 (source: Nurse and Philippson 1980, Nurse 1981)



付3：ルワ語の TA に関する諸資料

[1] TAM と Suffix の可能な組み合わせリスト

			pre-2				pos-2-3-4
			TAM <sub>1</sub>	TAM <sub>2</sub>	TAM <sub>3</sub>	TAM <sub>4</sub>	Suffix
PFV	PAST [Pa]	[Pa-Ø-1] hodiernal	<i>a-</i>				<i>-a</i>
		[Pa-Ø-2] hesternal			<i>Nde-</i>		<i>-a</i>
		[Pa-Ø-3] remote	<i>a-</i>				<i>-á/ -é</i>
		[Pa-I-1] intention +	<i>a-</i>			<i>Nde-</i>	<i>-a</i>
		[Pa-I-2] intention -	<i>a-</i>			<i>she-</i>	<i>-a</i>
	FUT [Fu]	[Fu-Ø] general					<i>-á-a</i>
		[Fu-I-1] intention +				<i>Nde-</i>	<i>-á-a</i>
		[Fu-I-2] intention -				<i>she-</i>	<i>-á-a</i>
		[Pa-P] past	<i>a-</i>	<i>i<sub>1</sub>-</i>	<i>M'-</i>		<i>-á-a</i>
		[Pa-P'] past (COMP)	<i>a-</i>	<i>i<sub>1</sub>-</i>	<i>M'-</i>	<i>maa-</i>	<i>-á-a</i>
		[Pr-P] present	<i>a-</i>		<i>M'-</i>		<i>-a</i>
		[Pr-P'] present (COMP)	<i>a-</i>		<i>M'-</i>	<i>maa-</i>	<i>-a</i>
		[Fu-P]& future	<i>a-</i>		<i>M'-</i>		<i>-a</i>
		[Fu-P']& future (COMP)	<i>a-</i>		<i>M'-</i>	<i>maa-</i>	<i>-a</i>
		[PA-C] PAST		<i>i<sub>1</sub>-</i>		<i>kée-</i>	<i>-a</i>
		[PR-C] PRESENT				<i>kée-</i>	<i>-a</i>
		[Fu-C]& future				<i>i<sub>2</sub>-</i>	<i>-á-a</i>
		CONS	[CONS] consecutive			<i>ka-</i>	<i>-a</i>
	HAB [-H]	[Pa-H] past		<i>i<sub>1</sub>-</i>			<i>-a-á</i>
		[Pr-H] present					<i>-a-á</i>
STAT [-S]	[Pa-S] past		<i>i<sub>1</sub>-</i>			<i>-ǐe-e</i>	
	[Pr-S] present					<i>-ǐe</i>	



[2] 一般動詞における「状態活用」のリスト

			pre-2				pos-2-3-4
			TAM <sub>1</sub>	TAM <sub>2</sub>	TAM <sub>3</sub>	TAM <sub>4</sub>	Suffix
IPFV	PERF [-P]	[Pa-P] past	<i>a-</i>	<i>i-</i>	<i>M'-</i>		<i>-á-a</i>
		[Pa-P'] past (COMP)	<i>a-</i>	<i>i-</i>	<i>M'-</i>	<i>maa-</i>	<i>-á-a</i>
		[Pr-P] present	<i>a-</i>		<i>M'-</i>		<i>-a</i>
		[Pr-P'] present (COMP)	<i>a-</i>		<i>M'-</i>	<i>maa-</i>	<i>-a</i>
		[Fu-P]& future	<i>a-</i>		<i>M'-</i>		<i>-a</i>
		[Fu-P']& future (COMP)	<i>a-</i>		<i>M'-</i>	<i>maa-</i>	<i>-a</i>
	HAB [-H]	[Pa-H] past		<i>i-</i>			<i>-a-á</i>
		[Pr-H] present					<i>-a-á</i>
STAT [-S]	STAT [-S]	[Pa-S] past		<i>i-</i>			<i>-ǐe-e</i>
		[Pr-S] present					<i>-ǐe</i>

[3] 状態動詞のリスト

	PST	PRS	FUT
1. <i>=iyó/ =ifó</i>	{SM-i=ifó/=iyó-ǎ}	{SM=ifó/=iyó}	{SM≠ vá-á-a=fó}
2. <i>-keé</i>	{SM-i≠ ka(r)-ǐe-v}	{SM≠ ka(r)-ǐe}	{SM≠ vá-á-a kú-lyá}
3. <i>-vá-</i>	{SM-a-i-N'≠ vá-á-ǎ}	{SM-a-N'≠ vá-a}	{SM≠ vá-á-a}
4. <i>-(w)ór-</i>	{SM-i≠ wór-ǐe-v}	{SM≠ wór-ǐe}	{SM≠ wór-á-a}
5. <i>-ǐ-shi</i>	{SM-i≠ ǐ-shi-v}	{SM≠ ǐ-shi}	{SM≠ koó!y-á-a SM≠ ǐ-shi}
6. <i>-úRi</i>	{SM-i≠ úRi-ǎ}	{SM≠ úRi}	{SM≠ ting'-w-á-a}

[4] 状態動詞の（人称）活用一覧

	1. =iyó / =ifó EXIST1	2. ka(r)-ĩe EXIST2	3. -vǎ- “be”	4. -(w)ór- “have”	5. -ĩ-shi “know”	6. -úRi “want”	
PRS	1s	<i>niifó</i>	<i>N'keé</i>	<i>naN'va</i> ´	<i>nooré</i>	<i>niishĩ</i>	<i>nuuRĩ</i> ´
	2	<i>kwiiifó</i>	<i>kukeé</i>	<i>kwaN'va</i> ´	<i>kooré</i>	<i>kwiishĩ</i>	<i>kuuRĩ</i> ´
	3	<i>eefó</i>	<i>akeé</i>	<i>aN'va</i> ´	<i>aoré / yooré</i>	<i>eeshĩ</i>	<i>aaRĩ</i> ´
	1p	<i>tiifó</i>	<i>tikeé</i>	<i>taN'va</i> ´	<i>tooré</i>	<i>tiishĩ</i>	<i>tuuRĩ</i> ´
	2	<i>mwiiifó</i>	<i>mukeé</i>	<i>mwaN'va</i> ´	<i>mooré</i>	<i>mwiishĩ</i>	<i>muuRĩ</i> ´
	3	<i>véefó</i>	<i>vakeé</i>	<i>vaN'va</i> ´	<i>vaaré</i>	<i>veeshĩ</i>	<i>vaaRĩ</i> ´
FUT	1s	<i>N'vaa fó</i>	<i>N'vaa kulya</i> ´	<i>N'vǎā</i> ´	<i>nooráa</i>	<i>N'koó!yáa niishĩ</i>	<i>N'ting'wáa</i>
	2	<i>kwaa fó</i>	<i>kuvaa kulya</i> ´	<i>kuvǎā</i> ´	<i>kooráa</i>	<i>kukoó!yáa kwiishĩ</i>	<i>kuting'wáa</i>
	3	<i>avaa fó</i>	<i>avaa kulya</i> ´	<i>avǎā</i> ´	<i>aoráa / yooráa</i>	<i>akoó!yáa eeshĩ</i>	<i>ating'wáa</i>
	1p	<i>tivaa fó</i>	<i>tivaa kulya</i> ´	<i>tivǎā</i> ´	<i>tooráa</i>	<i>tikoó!yáa tiishĩ</i>	<i>titing'wáa</i>
	2	<i>mwaa fó</i>	<i>muvaa kulya</i> ´	<i>muvǎā</i> ´	<i>mooráa</i>	<i>mukoó!yáa mwiishĩ</i>	<i>muting'wáa</i>
	3	<i>vavaa fó</i>	<i>vavaa kulya</i> ´	<i>vavǎā</i> ´	<i>vaaráa</i>	<i>vakoó!yáa veeshĩ</i>	<i>vating'wáa</i>
PST	1s	<i>niifoo</i>	<i>niikeé</i>	<i>neéN'vǎā</i> ´	<i>niiworéé</i>	<i>niiishĩ</i>	<i>niúRĩ</i> ´
	2	<i>kwiiifoo</i>	<i>kwiikeé</i>	<i>kweéN'vǎā</i> ´	<i>kwiiworéé</i>	<i>kwiiishĩ</i>	<i>kiúRĩ</i> ´
	3	<i>éefoo</i>	<i>eékeé</i>	<i>eéN'vǎā</i> ´	<i>eeworéé</i>	<i>éeshĩ</i>	<i>yóoRĩ</i> ´
	1p	<i>tiiifoo</i>	<i>tiiikeé</i>	<i>teéN'vǎā</i> ´	<i>tiiworéé</i>	<i>tiiishĩ</i>	<i>túuRĩ</i> ´
	2	<i>mwiiifoo</i>	<i>mwiikeé</i>	<i>mweéN'vǎā</i> ´	<i>mwiiworéé</i>	<i>mwiiishĩ</i>	<i>múuRĩ</i> ´
	3	<i>véefoo</i>	<i>veékeé</i>	<i>veéN'vǎā</i> ´	<i>veeworéé</i>	<i>veeshĩ</i>	<i>véuRĩ</i> ´